

## つよい子・やさしい子発見！

校長 館林 美和

2月5日(金)は今年最後の授業参観日。  
今年のもちめとして、成長した姿を発表会や普段の授業スタイルなどで見ていただきました。

ひまわり学級、1年生、2年生は、できるようになったことを自信満々に発表しました。3年生は、総合的な学習で学んだ「ふるさと落合」のことを役割分担をして伝えました。短い時間の中でも一人一人にスポットライトが当たるかの



ように、真剣さや一生懸命さが伝わる発表でした。4年生は、学習の最後に親子でかるた取りを行いました。集中した静けさと歓喜の声が交互に現れ、楽しく対決する姿がありました。5年生(国語)、6年生(外国語)では、接する相手に合わせた言葉の使い方や誰とでもコミュニケーションをとるための技を学んでいました。関わる相手が広がってくる高学年だからこそ、言葉を介した関わり方を身に付けていくことが大切なのだと感じさせる授業でした。たんぼぼ学級は、それぞれの交流学級と一緒に頑張りました。



このような授業の中、落合小がめざす子ども像を具現する姿に出会いました。

それは2年生の授業でした。AさんとBさんが、二人で掛け算九九の発表をしていました。発表をしている途中で、周りの子が一瞬「えっ？違う…」といった反応をしました。その反応を感じとったAさんは、発表が止まってしまいました。少し間が空いた後、涙がこぼれてきました。多分、自信満々で臨んでいる最中に思いもよらない反応が起こり、予想外のことでどうしたらよいのか分からなくなってしまったのでしょうか。

どうするのかなと思いついて見ていると、泣きじゃくりながらも発表内容を続け、最後まで言い切ったのです。それも、力強い声で言うことができました。この様子を見ていた保護者のみなさんからも、その頑張りには大きな拍手が湧きました。

ここに、落合小のめざす「つよい子」の姿を見ることができました。泣けてしまっても自分のやるべきことを必死に考え、くじけずにやり切る姿にたくましさを感じました。

そしてさらに、その隣で一緒に発表をしていたBさんからは「やさしい子」を具現する姿が見られました。Bさんも予想外の展開に困っていたと思います。しかし、じっとAさんの行動を待ち、最後まで発表しきった時にAさんの背中を軽くポンポンと叩くしぐさがありました。「大丈夫だよ。よくがんばったね。」の気持ちが伝わってくるようなしぐさでした。自然とこのような対応ができるBさんには、普段から相手に心を寄せて行動に移せる力が培われているのでしょうか。いざという時、その子のもっている力が表れるのだなと思いました。

後で担任から、Aさんが授業の振り返りをしたときに「止まってしまったけど、頑張って発表できてよかった。」と述べたことを聞きました。Aさんにとって、この日は、『自分の力で一つ乗り越えた素晴らしい思い出の一日』となったことでしょうか。学校で、多くの人と関わり、様々な経験を通して、じっくりじっくりと力をつけている子どもたちがここにいるということが分かる参観日でした。

### ◇落合の子どもたちを支えてくださるご支援に心より感謝申し上げます。

ウエダ歯科医院 院長 (故)上田 信義 様 より

今年度も図書館の蔵書充実のためにご寄付をくださいました。図書委員会を中心にして子どもたちの希望をもとに本を購入しました。子どもたちが喜んで本を手に取り、読書の幅を広げていくように活用させていただきます。  
ありがとうございました。

